

新春特別公開
徳川美術館所蔵

初音の調度宝



新春を華やかに彩る

九州国立博物館
[太宰府天満宮横]

新型コロナウイルス感染予防対策を実施しております。

徳川美術館
徳川家康の遺品をはじめ、尾張徳川家初代義直(家康九男以下)代々の遺愛品を収める美術館です。国宝「源氏物語絵巻」のほか、国宝九件、重要文化財五十九件などを含む一万件ありに及ぶ貴重な大名道具を公開しています。



令和3年(2021) 1月1日(金・祝)~1月24日(日)

開館時間=午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)
1月22日(金)、1月23日(土)は午後8時まで夜間開館(入館は午後7時30分まで)
休館日=1月4日(月)、1月12日(火)、1月18日(月)
会場=九州国立博物館 4階 文化交流展示室 第11室
観覧料=一般 700円、大学生 350円*

高校生以下・18歳未満および満70歳以上の方は無料

*学生証等の提示をお願いします。

※障害者手帳等をご持参の方とその介護者1名は無料です。展示室入口にて障害者手帳等(詳細についてはHP等をご確認ください)をご提示ください。 ※高校生以下・18歳未満および満70歳以上の方は、展示室入口にて生年月日がわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証等)をご提示ください。 ※キャンパスメンバーズの方は無料でご覧いただけます。展示室入口にて学生証、教職員証等をご提示ください。

ミュージアムトーク「国宝 初音の調度について」

日時=2021年1月13日(水)午後3時~午後3時30分
会場=九州国立博物館 スーパーハイビジョンシアター
講師=川畑憲子(当館企画課特別展示室長)



公共交通機関

- 西鉄電車** 西鉄福岡(天神)駅から西鉄天神大牟田線(特急約16分/急行約18分)で西鉄二日市駅乗り換え、西鉄太宰府線(約5分)で西鉄太宰府駅下車、徒歩約10分 ※特急/急行料金不要
- JR** JR博多駅からJR鹿児島本線(快速約15分)でJR二日市駅下車、JR二日市駅から西鉄二日市駅(徒歩約12分、バス約6分)、西鉄二日市駅から西鉄太宰府線利用
- 西鉄バス** 博多バスターミナル(1階11番のりば太宰府行き)から西鉄太宰府駅下車(所要時間約40分)、徒歩約10分
- 車** 【九州自動車道】 太宰府ICまたは筑紫野ICから高雄交差点経由で約20分
【福岡都市高速】 水城出口から高雄交差点経由で約20分
- タクシー利用** JR二日市駅から約15分・福岡空港から約30分

駐車場(有料)には限りがございますので、予めご了承ください。

KYUSHU NATIONAL MUSEUM
九州国立博物館
[太宰府天満宮横]

福岡県太宰府市石坂4-7-2 <http://www.kyuhaku.jp>
NTTハローダイヤル 050-5542-8600(午前8時~午後10時/年中無休)

新型コロナウイルス感染予防のため
マスクを着用してご入館ください。
発熱や風邪の症状がある方は
ご入館いただけません。

国宝 初音調度箱 / 国宝 初音調度箱 / 国宝 初音調度箱はすべて©徳川美術館イメージアーカイブ / DNPartcom

New Year Special Display
Hatsune Makie Lacquer Trousseau National Treasure from the Tokugawa Art Museum

「源氏物語」第二十三帖「初音」
新春を迎えた光源氏の邸宅・六条院。ちょうどこの年の正月元旦は子の日(初子)にあたります。源氏が紫の上に新年の賀を述べ、明石の姫君を訪ねると、部屋には姫君の生母である明石の御方から贈られた正月の祝物に「初音きかせよ(便りをいただけますか)」という歌が添えられています。それを見た源氏は、我が子の便りを待ちわびる母の思いを不憚りに思い、早速姫君に返事を書かせます。



国宝 初音の調度

New Year Special Display
Hatsune Maki-e Lacquer Trousseau
National Treasure from the Tokugawa Art Museum

九州初公開 華麗なる大名婚礼調度

徳川美術館に所蔵される国宝「初音の調度」は、徳川三代将軍家光の長女である千代姫が、寛永一六年（一六三九）、尾張徳川家二代光友に嫁ぐ折に制作された婚礼調度です。「初音」という名称は、この調度を飾る文様が、「源氏物語」初音帖に題材を得ていることに由来します。金銀を贅沢に使い、高度な蒔絵技術を尽くして描かれた豪華な調度は、大名婚礼調度の白眉として有名です。今回は、この国宝「初音の調度」のうち、貝桶、昆布箱、楊枝箱の三件を展示し、婚礼行列を描いた絵巻や大揃いの婚礼調度も合わせてご紹介いたします。新春を飾るにふさわしい華麗なる婚礼調度。皆様どうぞゆつくりとお楽しみください。

国宝 初音蒔絵貝桶
江戸時代・寛永一六年（一六三九） 徳川美術館
婦女の貞節の象徴である合貝を取める一对の桶。婚礼調度の中では最も重要な意味を持ち、婚礼行列の先頭を飾る。



国宝 初音蒔絵昆布箱
江戸時代・寛永一六年（一六三九） 徳川美術館
婚礼の祝物の昆布鬚斗を取める。お歯黒のあとに、洗い後口を良くするために昆布を口にするこももあった。



国宝 初音蒔絵楊枝箱
江戸時代・寛永一六年（一六三九） 徳川美術館
楊柳の枝の先端を細かく割り裂いて、総状にした楊枝を取める。楊枝は歯を清潔にする用具で、現代の歯ブラシに相当する。



源氏蒔絵彩色貝桶
江戸時代・一七世紀 東京国立博物館
貝覆に用いる三六〇個の貝を取める。貝覆は、内側に草花や源氏文様を描いた蛤貝の一方を伏せ並べ、貝の形や模様からもう一方の貝を引き当てる遊び。



叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵鏡台
江戸時代・一八世紀 国（文化庁保管）
化粧道具や文房具など三十六件を数える大揃いの婚礼調度のひとつ。いずれも牡丹唐草文に盛岡藩主南部家の家紋である向鶴紋を散らした意匠としている。



竹菱葵紋散蒔絵黒黒道具
江戸時代・文化一三年（一八一六） 東京国立博物館
紀州徳川家十代治宝の娘、豊姫（一八〇〇～一八四五）所用と伝えられる婚礼調度。豊姫の調度は三十五件にのぼり、梨地に竹菱文を全体に表し、葵紋を散らした意匠で統一されている。



徳川種姫婚礼行列図（上巻部分）
狩野養和筆 江戸時代・天明七年（一七八七） 東京国立博物館
十代将軍家治の養女、種姫（一七六五～一七九四）が後の紀州徳川家十代治宝に嫁した際の婚礼行列を描いた絵巻。規式の則った豪華な行列の様子が見て取れる。

